第11講　らむ・けむ／らむの識別・べし・まじ

PART1　らむ・けむ

らむ・けむ（＝「ら　　・け　　」）

基本形	接続	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
らむ		○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段型
けむ	形	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段型

【意味】

〈違い〉＝「時制」

「らむ」＝「　　　」

「けむ」＝「　　　」

〈共通〉

① 推量（～だろう）

② 原因推量（どうして～だろう）

③ 伝聞（～とかいう）

④ 婉曲（～ような）

※共通の意味の上にそれぞれ時制を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

〈見分け方〉＝「　　」か「　　」に分ける。

○「　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」

○「　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　」の意味の見分け方

○見ている→「　　」

○見ていない→「　　」

※　文中に、**「どうして〜」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　」が多い。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙さへなどとまらざるらむ

②　駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③　人違へにてぞあるらむ

④　見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

問一　「さて都にも心安くておはすらんと思はば、…」の傍線部の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1　可能　2　自発　3　完了　4　受身　5　打消推量
6　意志　7　強意　8　過去　9　推量　10　現在推量

問二　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞推定　キ　完了　ク　当然

問三　次の空欄A、Bには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［A］心の中のあはれに、…」
一つ橋危がりて帰り来たり［B］者のやうに、わびしくおぼゆ

A＝　　　B＝

〈Memo〉

第11講　PART1　確認問題

① 「などさはた［　］けむ。」の空欄にあてはまる動詞「生ひ出づ」を正しく活用させたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生ひ出で　イ　生ひ出づ　ウ　生ひ出づる　エ　生ひ出づれ　オ　生ひ出でよ

② 「御前（おまへ）の庭を掃（は）くとて、『などや苦しきめを見るらむ。わが国に七つ三つ作り据ゑたる、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして苦しい目にあったのだろう
イ　どうして苦しい目にあっているのだろう
ウ　どうして苦しい目にあうというのだろう
エ　どうして苦しい目にあったというのだろう

③ 「語り申させたまひけめど、…」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　婉曲　イ　伝聞　ウ　過去の推量　エ　過去の詠嘆　オ　勧誘

④　空欄ａ・ｂにあてはまる助動詞「らむ」について説明したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

世間（せけん）の摂政（せつしやう）・関白（くわんぱく）と申し、大臣（だいじん）・公卿（くぎやう）と聞こゆる、いにしへ今の、みなこの入道殿の御有様のやうにこそおはします［ａ］とぞ、今様（いまやう）の児（ちご）どもは思ふ［ｂ］かし。

ア　ａには終止形「らむ」、ｂにも終止形「らむ」があてはまる。
イ　ａには連体形「らむ」、ｂには已然形「らめ」があてはまる。
ウ　ａには已然形「らめ」、ｂには連体形「らむ」があてはまる。
エ　ａには已然形「らめ」、ｂにも已然形「らめ」があてはまる。

⑤　傍線部の中で、意味が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　さるべきにやありけむ、負ひ奉りて下るに、…
イ　火をともして見れば、昔、こはたといひけむが孫といふ。
ウ　ただ、人に見えけんぞねたき。
エ　あはれ、かれをはしたなういひけむこそ、いとほしけれ。

第11講　PART1　解答

〔例題一〕　①　現在原因推量　②　現在推量　③　現在推量　④　過去原因推量

問一　10

問二　イ

問三　A　らむ　B　けむ

第11講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「けむ」は、活用語の連用形に接続する。よって、アが正解。

②「らむ」が文末にあるので、現在推量か現在の原因推量。「御前の庭を掃く」＝「苦しきめを見る」なので、現状を見ながら発言していると考えられる。よって、「どうして～ているのだろう」と現在の原因推量で訳しているものを選べばよい。

③傍線部「けめ」（＝「けむ」の已然形）は、時制が「過去」の助動詞なので、ウかエ。「けむ」に「詠嘆」の意味はない。よって、ウが正解。

④ａは係助詞「こそ」、ｂは係助詞「ぞ」をそれぞれ受けている。よって、ａは已然形「らめ」、ｂは連体形「らむ」があてはまる。

⑤イ・ウ・エは、文中にあるので「～たとかいう」「たような」と訳す過去の伝聞婉曲の意味。アのみ、文の切れ目の直前にあるので、「～ただろう」と訳す過去推量の意味。

〔解答〕

①ア　②イ　③ウ　④ウ　⑤ア